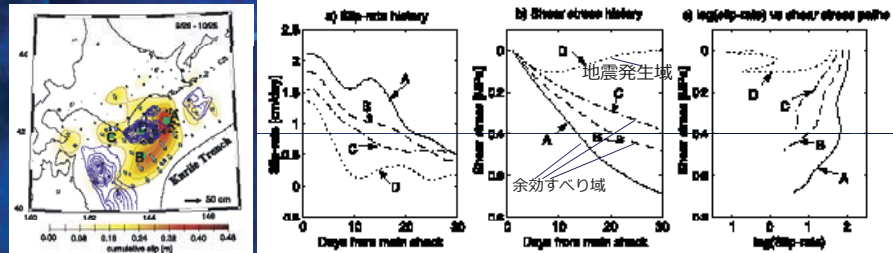


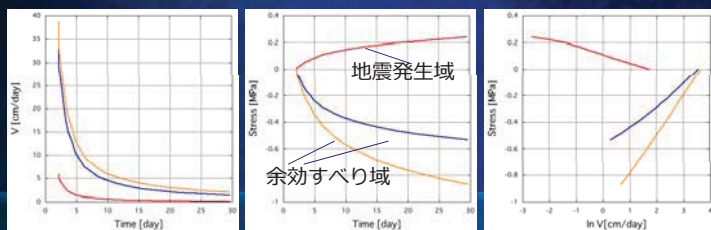
モデルで表現できること

GPSデータ解析



Miyazaki et al. (2004)

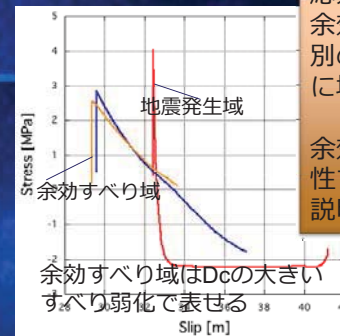
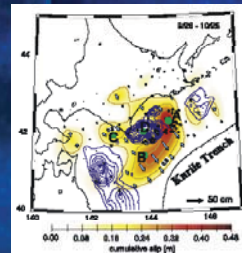
シミュレーション結果



12

モデルで表現できること

GPSデータ解析

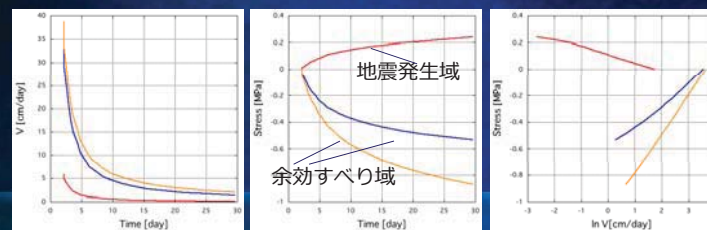


応力状態次第で
余効すべり域で
別のサイクル時
に地震性すべり

余効すべりと地震
性すべりの共存は
説明可能

余効すべり域はDcの大きい
すべり弱化で表せる

シミュレーション結果



13

モデルで説明できていない現象や 検討すべきこと

- ・ 深部での数十年スケールでの余効すべりや地震間の固着
- ・ まだ説明できていない
 - ・ 媒質の粘弾性も考慮した上で発生サイクルの計算を行ない、地震後の余効すべりや地震間の沈降を定量的に説明できるか検討する必要
- ・ 地殻変動データの再検討
 - ・ いつから沈降に転じたかなど変化の仕方
 - ・ 現在の沈降と17世紀event前の沈降との比較

- ・ 再来間隔の変化に規模依存性があるか？
 - ・ 超巨大の後長い再来間隔？

- ・ 相似地震が振っている領域の振る舞い
 - ・ 現在やこれまでの固着状態(特に海溝付近)
 - ・ 1952年にそのうちのどこが破壊したか？
 - ・ その時にも破壊しなかった領域は？
 - ・ 海溝付近まですべりが及んだことがあるか？

